

若手教師・教育創造MTG^{ミーティング}

第1回オンラインミーティング・レポート

意欲あふれる16人の若手が、 協働的に学びを深める！

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月から多くの学校が臨時休業となり、現場の教師は、同僚との対話の場が十分に得られない状態が続いた。そうした中、本誌の前号で告知した「若手教師・教育創造 MTG」の第1回が4月下旬、オンラインで開催され、次代を担う全国の若手教師16人（公立高校教師14人、私立高校教師2人）が、関心のあるテーマについて語り合った。

まずは、お互いの課題感や置かれている状況を知る

16人のメンバーが初めて集った今回のオンラインミーティングは、メンバー一人ひとりの自己紹介から始まった。臨時休業が続く中、オンライン指導の校内研修会を経て授業動画を作成したり、担任クラスの生徒に電話をかけて様子を聞いたりするなど、それぞれが今できることを模索し、取り組む姿が語られた。

今回、メンバーは、「全国の若手教師と話し合ってみたい課題」を、VIEW21編集部が準備したチャットツールで事前に伝え合い、オンラインミーティングでは、その内容を踏まえて、「オンライン授業」「地域と連携した探究学習」「進路指導（体制づくり、ポートフォリオの活用など）」の3カテゴリーで具体的な意見交換を行った。

「オンライン授業」については、「知識の習得だけでなく、生徒に気づきの感動やその共有を、オンライン授業の中ではどうすれば保障できるか」といった、臨時休業下の率直な問題提起がされた。既にオンライン授業の実践を重ねるメンバーからは、「大

人数でのオンライン授業では、自分の考えや思いを率直に話づらい生徒もいる。オンライン会議ツールの中には、少人数に分けたグループ活動が可能なのがあり、まずは少人数で意見交換をしてから、全体の活動に移ると、意見を言いやすくなると思う」などのアイデアが出された。

「地域と連携した探究学習」については、「調べ学習で終わらせず、その地域での自分のあり方・生き方まで探究学習を深めるには」「地域の課題に興味を持たず、別のテーマで取り組みたい生徒がいたらどう対応するか」など、探究学習の本質にかかわるような課題が共有された。そして、「進路指導」では、「教師の多忙化が進む中で、進路指導の体系化や、教師、生徒を巻き込んだ指導の目線合わせの難しさに悩んでいる」といった声に対して、「ポートフォリオを単なる活動の記録箱とするのではなく、そこから自分と大学、自分と社会の接点が深まった部分を生徒に抽出させていくことで、生徒の進路観がどのように深まったかについて、教師の指導の目線合わせが進んでいく」といった、自校の実践を踏まえた助言も見られた。

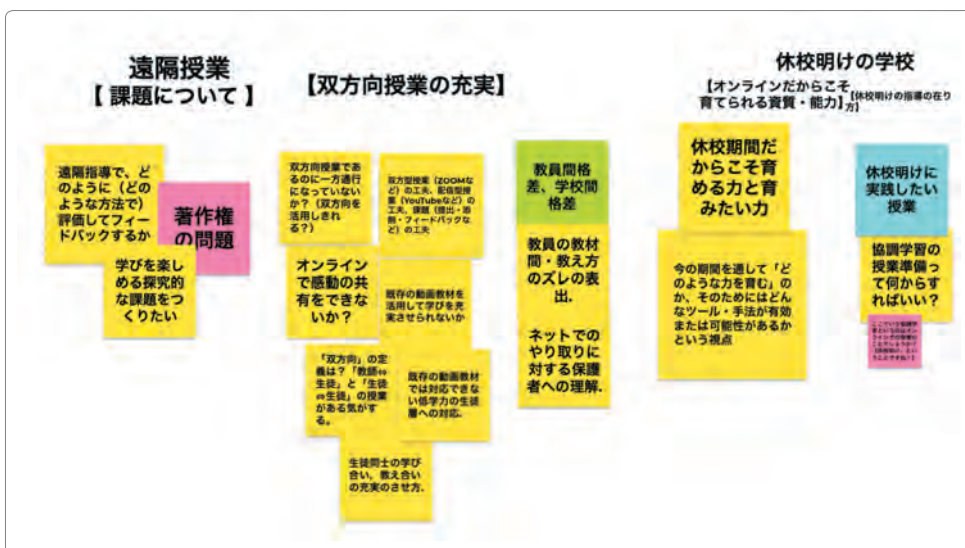


オンライン指導の情報交換や自主的な対話が始まる

メンバーがお互いを知ることが最大の目標だった今回のオンラインミーティング。約2時間の対話の終

了時には、「いろいろな先生の話を知ること、興味・関心が広がった気がする。この場を活用して多くのことを積極的に学んでいきたい」「全国の先生方とオンラインで情報共有ができるのは、予測不可能な状況が

続く今、大きなメリットだと感じた」といった感想が上がった。オンラインミーティングの開催と並行して、メンバーが自由に交流できる場としてVIEW21編集部が準備したチャットツール上に早速、多



写真上/全国の16人の若手教師とVIEW21編集部による第1回ミーティングは、オンライン会議ツールを使って開催された。写真下/ミーティング終了後、メンバーが授業実践に関する課題をオンライン上でブレインストーミングしたもの。

メンバー主催の自主的なオンライン対話で出された探究学習の課題

- ✓ 高校生向けのオンライン探究教材プラットフォームの作成
- ✓ 探究学習における教師のチーム化（どのようにほかの教師を巻き込むか）
- ✓ 探究学習の評価（ルーブリックの作成、キャリア・パスポートの活用、外部評価導入）
- ✓ SDGsと生徒の興味・関心の接続
- ✓ 臨時休業時に実践可能な探究活動のアイデア
- ✓ 探究学習における地域人材活用（地域との関係づくり）
- ✓ 生徒の探究学習を深める教師のかかわり方

多くのメンバーが関心を寄せる「授業実践」「探究学習」「進路指導」の3つのチャンネルが設けられ、自校の取り組みの紹介や指導ツールの共有などが行われた。さらに、オンライン上の仮想ホワイトボードを活用した授業実践に関する課題の洗い出し（写真下）や、探究学習に関するメンバー主催のオンライン対話など、主体的な活動が続いている。

第2回オンラインミーティングでは、メンバー共通の課題や具体的な方策について、より深めていく予定だ。